

# 地域文化を未来に受け継ぐ文化観光の挑戦

文化庁

# 文化観光推進法

文化観光拠点施設を中核とした  
地域における文化観光の推進に  
関する法律

2020年5月施行

観光を通じて文化への理解を深め、  
文化を起点とした好循環を形成する

# 2022年4月 改正博物館法の成立

## 博物館法第3条（博物館の事業）

3 博物館は、第一項各号に掲げる事業の成果を活用するとともに、地方公共団体、学校、社会教育施設その他の関係機関及び民間団体と相互に連携を図りながら協力し、当該博物館が所在する地域における教育、学術及び文化の振興、文化観光（略）その他の活動の推進を図り、もって地域の活力の向上に寄与するよう努めるものとする。

### 公布通知における留意事項

7. 第3条第3項において「地域における教育、学術及び文化の振興、文化観光その他の活動の推進を図り、もって地域の活力の向上に寄与するよう努めるものとする」と規定するうちの
- ① 「その他の活動」には、まちづくり、福祉分野における取組、地元の産業の振興、国際交流等の多様な活動を含み、
  - ② 「地域の活力の向上」には、地域のまちづくりや産業の活性化に加え、コミュニティの衰退や孤立化等の社会包摂に係る課題、人口減少・過疎化・高齢化、環境問題等の地域が抱える様々な課題を解決することを含むこと。

活用圧力によって  
文化財の保存が脅  
かされるのでは？

文化施設は収益  
をあげるところで  
はない

観光的な楽しさだ  
けでは、学びや教  
育が疎かになる

**観光に取り組むことは「あるべき姿」を歪めてしまう！**

**文化観光の目指すところと、前時代型の観光  
(マスツーリズム)の目指すところは異なる**

# 文化観光推進の 意義と目標

# 文化観光の推進に関する基本方針 「文化観光推進の意義」

**文化資源の保存・修復などを適切に進めていくことを大前提**として、**多くの人々に文化資源の魅力を伝えることは、文化の保存・継承の意義の理解**につながり、**新たな文化の創造・発展**につながるものである。

文化の振興を起点として、経済の牽引や**国際相互理解**の増進につながる観光の振興を図り、さらには、人の往来や購買・宿泊等の消費活動の拡大などを通じた**地域の活性化**を実現することで、**新しい文化の創造も含めた文化の振興に再投資される好循環**が創出される。

## 文化資源とは

有形の文化的所産としての建造物、絵画、彫刻、工芸品等、無形の文化的所産としての演劇、音楽、工芸技術等のほか、風俗慣習・民俗芸能・民俗技術等や遺跡・名勝地・資料として整理された動植物等が幅広く含まれる。

文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律 運用指針  
[92795701\\_01.pdf \(bunka.go.jp\)](#)

必要な視点

「財（たからもの）」として  
保存・継承されてきた文化を  
社会や地域の維持向上に貢献しうる  
「資源」として活用していく

# 文化観光の推進に関する基本方針 「文化観光の推進の目標」

1

## 好循環の 創出

文化の振興を起点として、観光の振興、地域の活性化につなげ、その経済効果が**文化の振興に再投資される好循環が創出**されること

2

## 連携体制 の構築

文化観光拠点施設と文化観光を推進する事業を実施する者（文化観光推進事業者）、地方公共団体との**連携体制が構築**されること

3

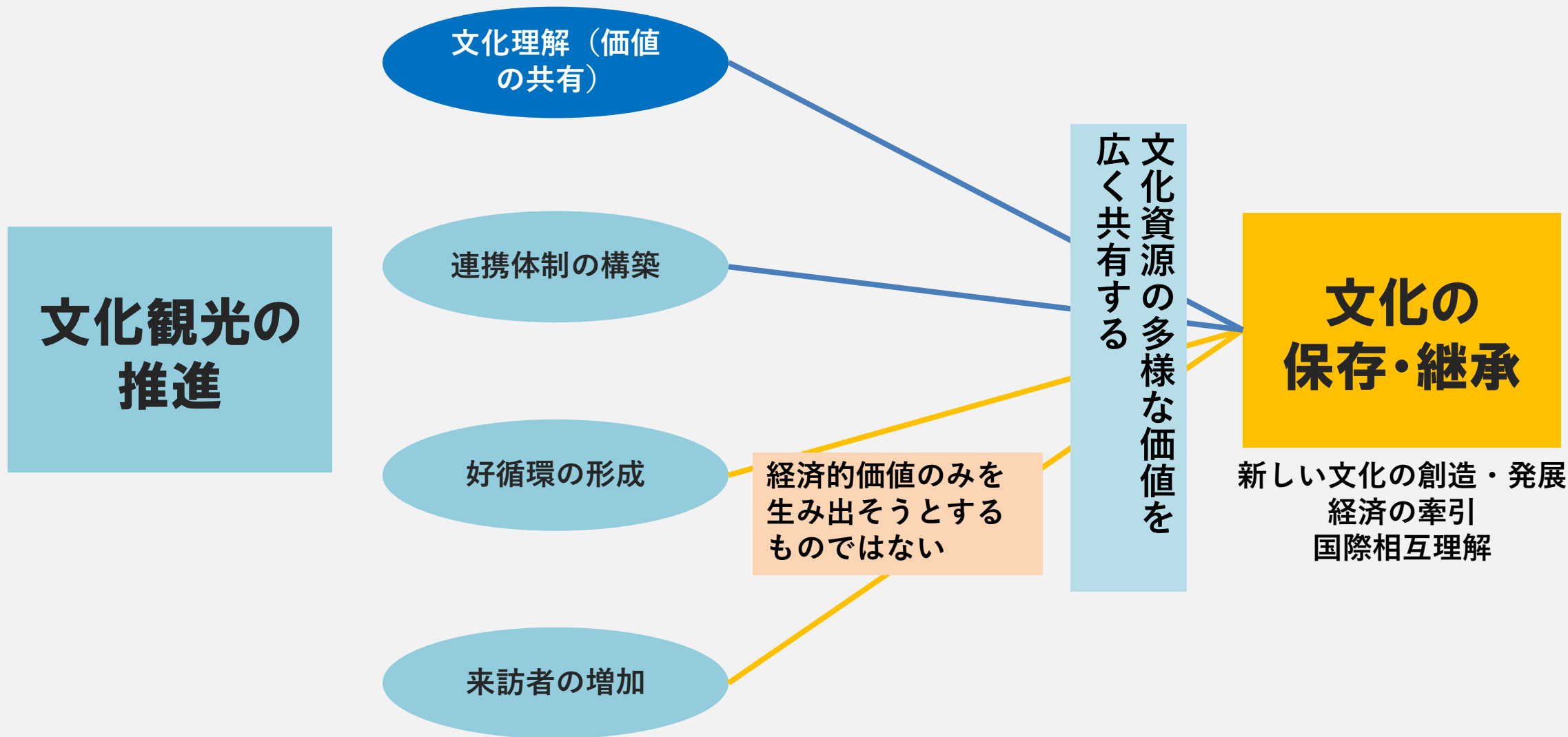
## 文化理解

文化観光拠点施設等における魅力ある解説・紹介等の取組を通じて、**多くの来訪者の文化への理解が深まり、満足度が高まる**こと

4

## 来訪者の 増加

文化観光拠点施設及び地域への**国内外からの来訪者が増加**すること。特に、国外からの来訪者が今後10年間で現在の2倍程度まで増加すること。



文化観光では観光を通じ、経済的価値も含めた地域の活性化を図る。  
その基盤となるのは文化資源の価値と魅力であり、文化理解の促進である。

# その「価値」は共有されているか

価値

基準をもって定まった価値(客観的・絶対的)

+

利用者や情報の受け手が感じる価値(主観的・相対的)

文化財は国民  
共有の財産

博物館は  
地域の宝

「財産(たからもの)」としての認識＝価値を感じるかどうか

文化資源を未来へと継承するためには、  
多くの人が多様な価値を見出し、共有・共創することが必要  
そのための**重要な取り組みのひとつが文化観光**

## INTERNATIONAL CULTURAL TOURISM CHARTER Managing Tourism at Places of Heritage Significance (1999)

*Adopted by ICOMOS at the 12th General Assembly in Mexico, October 1999.*

### INTRODUCTION

#### The Charter Ethos

At the broadest level, the natural and cultural heritage belongs to all people. We each have a right and responsibility to understand, appreciate and conserve its universal values.

Heritage is a broad concept and includes the natural as well as the cultural environment. It encompasses landscapes, historic places, sites and built environments, as well as biodiversity, collections, past and continuing cultural practices, knowledge and living experiences. It records and expresses the long processes of historic development, forming the essence of diverse national, regional, indigenous and local identities and is an integral part of modern life. It is a dynamic reference point and positive instrument for growth and change. The particular heritage and collective memory of each locality or community irreplaceable and an important foundation for development, both now and into the future.

## INTERNATIONAL CULTURAL TOURISM CHARTER Managing Tourism at Places of Heritage Significance (ICOMOS1999)

遺産の保護と開発との関係性だけでなく、観光と地域社会との共生的関係性についても謳っている。また文化観光プログラムは自然及び文化的な遺産の特性を保護し強化するものであるべきとする。

→今日的な「文化観光」の定義の嚆矢

## Role of Museums in Education and Cultural Tourism Development (UNESCO/ICOM 2010.10)



With the support of the UNESCO Office in Moscow  
for Armenia, Azerbaijan, Belarus,  
the Republic of Moldova and the Russian Federation



Pilot Project of UNESCO and Intergovernmental Foundation  
for Educational, Scientific and Cultural Cooperation (IFESCOO)  
**"RUNNING A MUSEUM – XXI CENTURY" (2008-2014)**

Regional thematic UNESCO/ICOM training  
and the first expert meeting for museum specialists of CIS countries

## "ROLE OF MUSEUMS IN EDUCATION AND CULTURAL TOURISM DEVELOPMENT"

### Sustainable Cultural Tourism

International Council of Museums (ICOM) and the World Federation of Friends of Museums  
The Cultural Tourism. (December 2007)

...it their self-imposed ethical mission to ensure that tourism interacts respectfully with  
cultural heritage, and that attitudes and approaches take into consideration not only tangible and intangible  
heritage, but the cultural present as well.

Knowledge of tourist destinations, of their surrounding cultures, their natural -historic heritage and their areas of  
special scientific importance and beauty should increase understanding amongst the local population thus  
strengthening their self-confidence and cultural identity

Sustainable Cultural Tourism affects many groups, such as tourists, local population, museums, archaeological sites,  
landscapes, tourism agents and authorities.

Therefore, it is necessary to raise awareness on this matter among all groups and advise them on good managing  
practices. Sustainable Cultural Tourism does not affect only tourists visiting foreign countries as it is hinted on the  
document "The responsible tourist and traveller". There is also a great number of domestic tourists (scholars,  
associations....) that affect museums and monuments in the same way.

**Sustainable Cultural Tourism (ICOM/WFFM2007.12)**

# 保存と活用の好循環の拠点 「文化観光拠点施設」

文化観光拠点施設を中核とした  
地域における文化観光の推進に関する法律

**文化観光拠点施設：**以下を満たし、地域における文化観光の推進の拠点となるもの

- ① 文化資源の保存及び活用を行う施設（文化資源保存活用施設※<sup>1</sup>）のうち、
- ② 観光旅客が文化についての理解を深めることに資するよう解説・紹介をするとともに、
- ③ 文化観光の推進に関する事業を行う者（文化観光推進事業者※<sup>2</sup>）と連携するもの

※1 博物館、美術館、社寺、城郭等

※2 観光地域づくり法人（DMO）、観光協会、旅行会社等

文化観光拠点施設

文化資源保存活用施設

- 文化資源の保存及び活用を行う施設

※博物館、美術館、社寺、城郭等

- 観光旅客が文化についての理解を深めることに資するような解説・紹介を行う

連携

文化観光推進事業者

- 文化観光の推進に関する事業を行う者

※観光地域づくり法人（DMO）、観光協会、旅行会社等

**文化観光拠点施設：**以下を満たし、地域における文化観光の推進の拠点となるもの

- ① 文化資源の保存及び活用を行う施設（文化資源保存活用施設※<sup>1</sup>）のうち、
- ② 観光旅客が文化についての理解を深めることに資するよう解説・紹介をするとともに、
- ③ 文化観光の推進に関する事業を行う者（文化観光推進事業者※<sup>2</sup>）と連携するもの

※1 博物館、美術館、社寺、城郭等

※2 観光地域づくり法人（DMO）、観光協会、旅行会社等

文化観光拠点施設

文化資源保存活用施設

- 文化資源の保存及び活用を行う施設

※博物館、美術館、社寺、城郭等

- 観光旅客が文化についての理解を深めることに資するような解説・紹介を行う

連携

文化観光推進事業者

- 文化観光の推進に関する事業を行う者

※観光地域づくり法人（DMO）、観光協会、旅行会社等

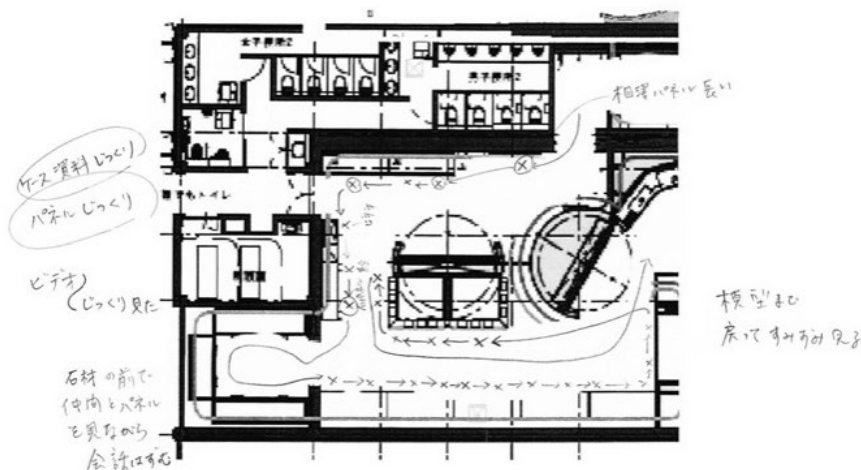


## 事例 1

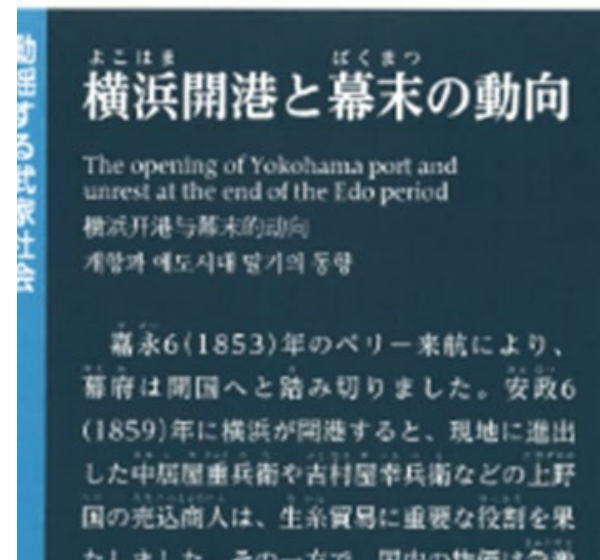
### 来館者の行動観察を通じた、解説パネルの改善

群馬県立歴史博物館(群馬県高崎市)

群馬県立歴史博物館では、①中高生が読んだら分かる、②大人が読んで子供に説明できる、の2点を満たすよう、来館者の行動観察を通してパネルの解説文を改善してきた。また、来館者の興味を引き、内容の大枠が理解できるようにタイトルとサブタイトルにも工夫を凝らした。学芸員それぞれがパネルを作成したが、アカデミックな価値が失われないよう、タイトルには「時代性を反映させる」、サブタイトルは「十数文字以内で興味を引き、何が起こったか分かる」ものになるよう周知した上で、作成したパネルを学芸員同士で確認し合い、博物館として守りたいラインを探る議論を重ねた。加えて教育普及係の職員にも見てもらい、「分かりやすく」「歴史的背景」が伝わるパネル解説になっているかを確認することで、館全体での基準を統一した。



行動観察中は来館者の動線を線で書き記し、滞在時間の長い場所では「×」の印をつけた。  
(提供:群馬県立歴史博物館)



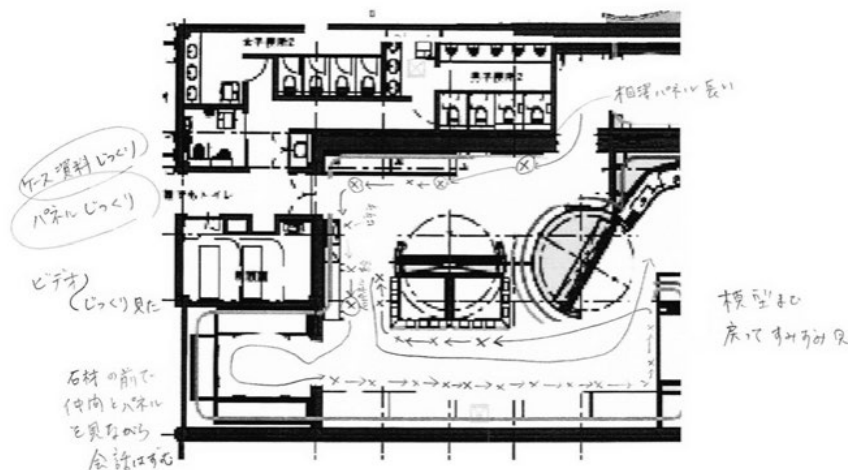


### 事例 1

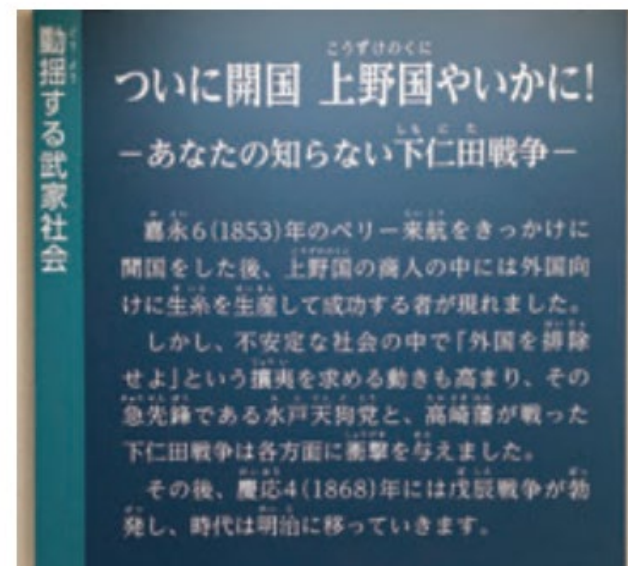
## 来館者の行動観察を通じた、解説パネルの改善

群馬県立歴史博物館(群馬県高崎市)

群馬県立歴史博物館では、①中高生が読んだら分かる、②大人が読んで子供に説明できる、の2点を満たすよう、来館者の行動観察を通してパネルの解説文を改善してきた。また、来館者の興味を引き、内容の大枠が理解できるようにタイトルとサブタイトルにも工夫を凝らした。学芸員それぞれがパネルを作成したが、アカデミックな価値が失われないよう、タイトルには「時代性を反映させる」、サブタイトルは「十数文字以内で興味を引き、何が起こったか分かる」ものになるよう周知した上で、作成したパネルを学芸員同士で確認し合い、博物館として守りたいラインを探る議論を重ねた。加えて教育普及係の職員にも見てもらい、「分かりやすく」「歴史的背景」が伝わるパネル解説になっているかを確認することで、館全体での基準を統一した。

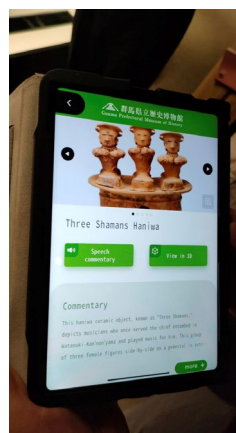
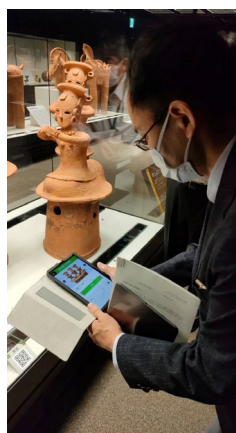
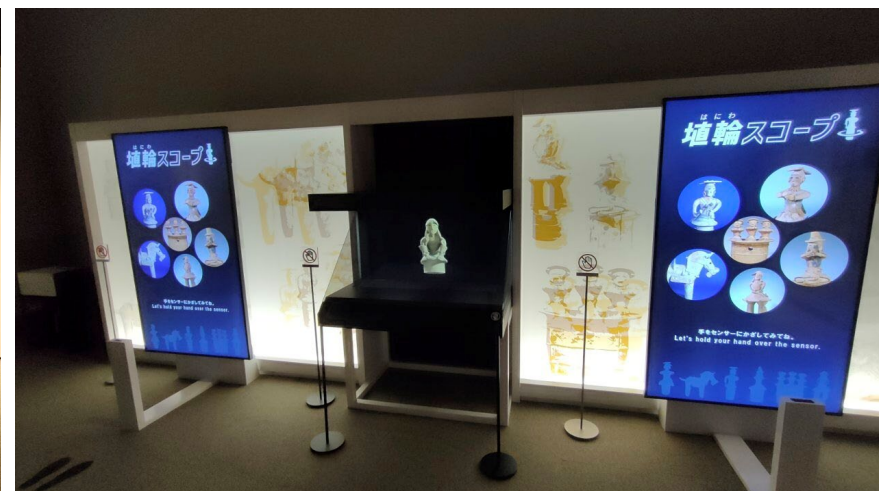


行動観察中は来館者の動線を線で書き記し、滞在時間の長い場所では「×」の印をつけた。  
(提供:群馬県立歴史博物館)



## 群馬県立歴史博物館

埴輪の3Dモデル作成・デジタルアーカイブ化  
アプリやデジタル展示などへ活用



# 多言語による解説



舞台上部に設置した字幕モニター  
(写真提供:徳島県立阿波十郎兵衛屋敷)



## ネイティブの研究者に英語字幕を依頼

訪日外国人に、日本語で上演される人形座の語りを、字幕を通じて伝えるには英文作成の方法に工夫が必要になる。

阿波十郎兵衛屋敷では、舞台の上部にモニターを設置し、太夫の語りに日本語字幕に加えて英語の字幕を表示している。例えば、人形浄瑠璃を通じて「嘆かわしい現世」や浄瑠璃の世界を英語圏の訪問者に伝えるには、日本語の単なる英訳ではなく、意味を補完し、リズム感も意識して英文を起こす必要がある。

思う様にならぬが浮世、

This world is not always what we wish it to be. That is how this sad world is.

(この世界は常に私たちが望む通りになるとは限りません。それがこの悲しい世界なのです。)

嘆かわしい現世を、「必ずしも望む通りになるとは限らない」「それがこの悲しい世界」と砕いて説明。

「さてもさても世の中に、親となり子と生まるる程、深い縁はなけれどもナア、

There is no bond more profound in this world than between parent and child.

(この世で親子ほど深い絆はありません。)

日本語でも意味が取りにくい語りをシンプルな英文で。

# 文化についての理解を深める 「価値」を伝える

文化観光で想定  
される来訪者

文化観光で求めら  
れる展示・解説

基本的知識がなく関心が薄い  
「ついで利用」  
滞在時間が短い  
再来館は基本しない



価値と魅力の共有 ≠ 知識教授・学習  
地域に広げる・繋げる ↔ 館内で完結する体験

コンセプトとビジョンの掘り下げ(展示の狙い)  
辞書的な情報羅列ではなくストーリー

**文化観光拠点施設：**以下を満たし、地域における文化観光の推進の拠点となるもの

- ① 文化資源の保存及び活用を行う施設（文化資源保存活用施設※<sup>1</sup>）のうち、
- ② 観光旅客が文化についての理解を深めることに資するよう解説・紹介をするとともに、
- ③ 文化観光の推進に関する事業を行う者（文化観光推進事業者※<sup>2</sup>）と連携するもの

※1 博物館、美術館、社寺、城郭等

※2 観光地域づくり法人（DMO）、観光協会、旅行会社等

文化観光拠点施設

文化資源保存活用施設

- 文化資源の保存及び活用を行う施設

※博物館、美術館、社寺、城郭等

- 観光旅客が文化についての理解を深めることに資するような解説・紹介を行う

連携

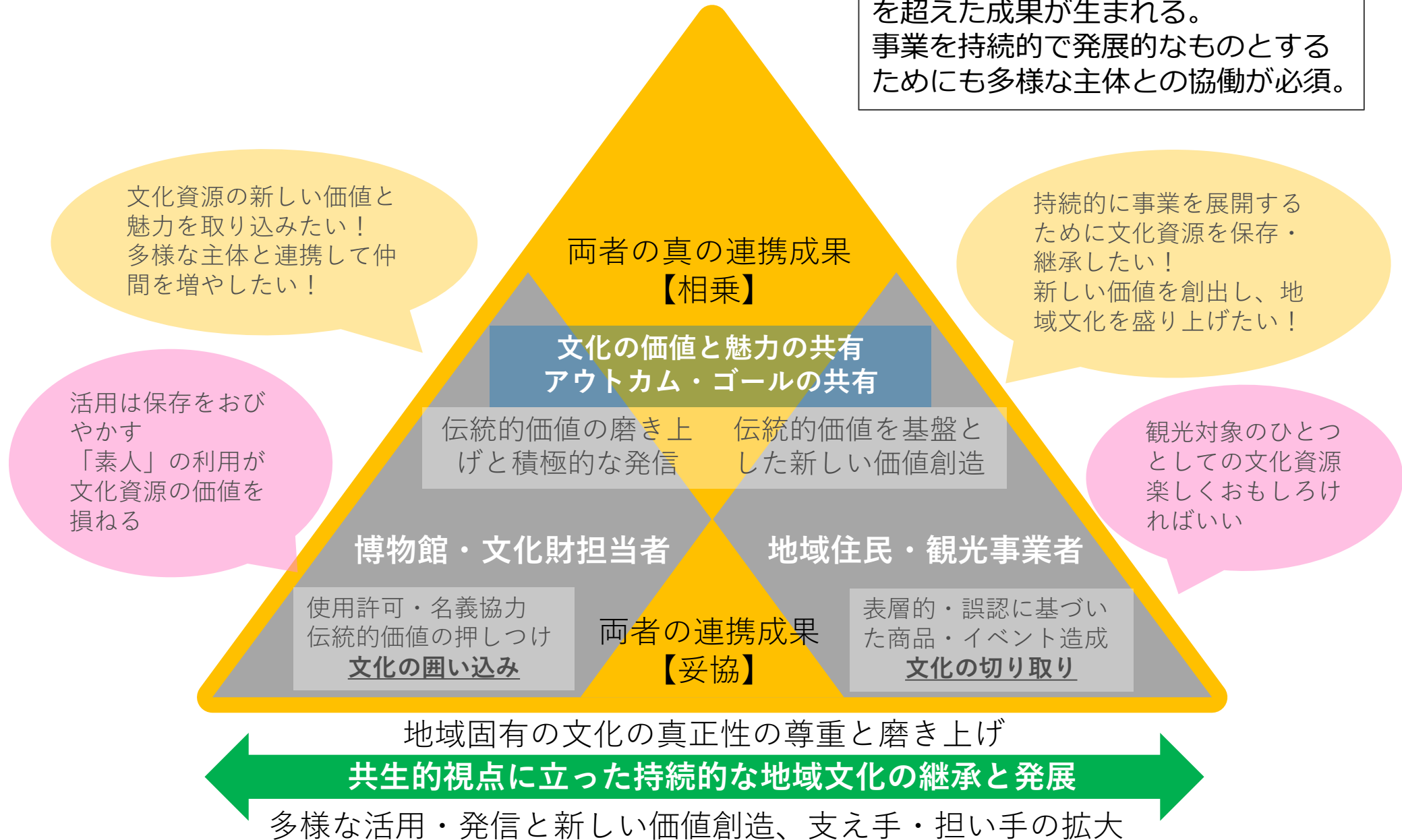
文化観光推進事業者

- 文化観光の推進に関する事業を行う者

※観光地域づくり法人（DMO）、観光協会、旅行会社等

# 真の連携とは：価値共有による共創

相互理解と信頼、尊重のもとに、事業価値を共創するなかで互いの想像を超えた成果が生まれる。  
事業を持続的で発展的なものとするためにも多様な主体との協働が必須。

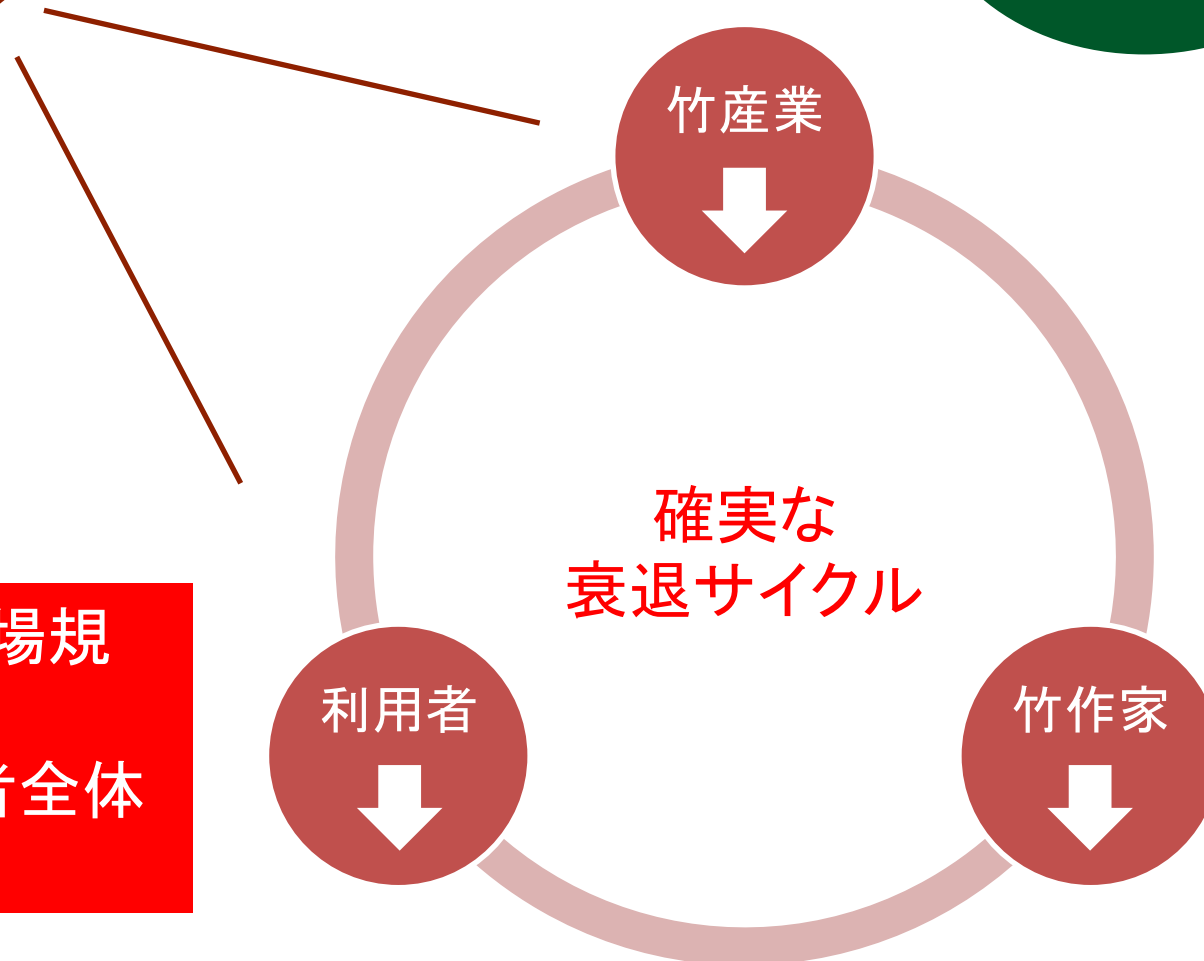
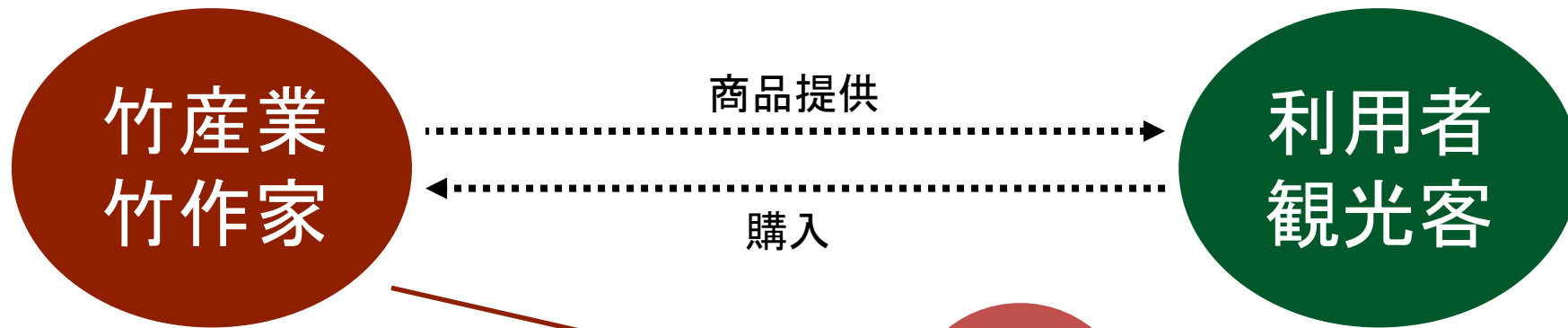


# 取組事例



伝統的な産業を継承するには？



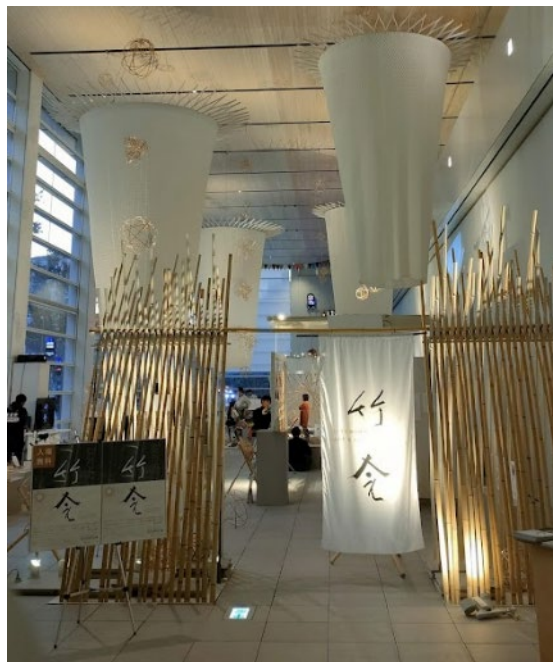


伝統産業であるため、市場規模が小さく先細り  
伝統産業に関わる関係者全体が緩やかに衰退

# 地域の伝統的な産業と 工芸・美術に光を当てる

大分県立美術館  
「竹会」

# 大分県立美術館「竹会」



[竹会 <たけえ> OITA BAMBOO ART & LIGHTS 2023 | \(o-bje.net\)](https://o-bje.net/)

OITA BAMBOO ART & LIGHTS 2024 『竹会』

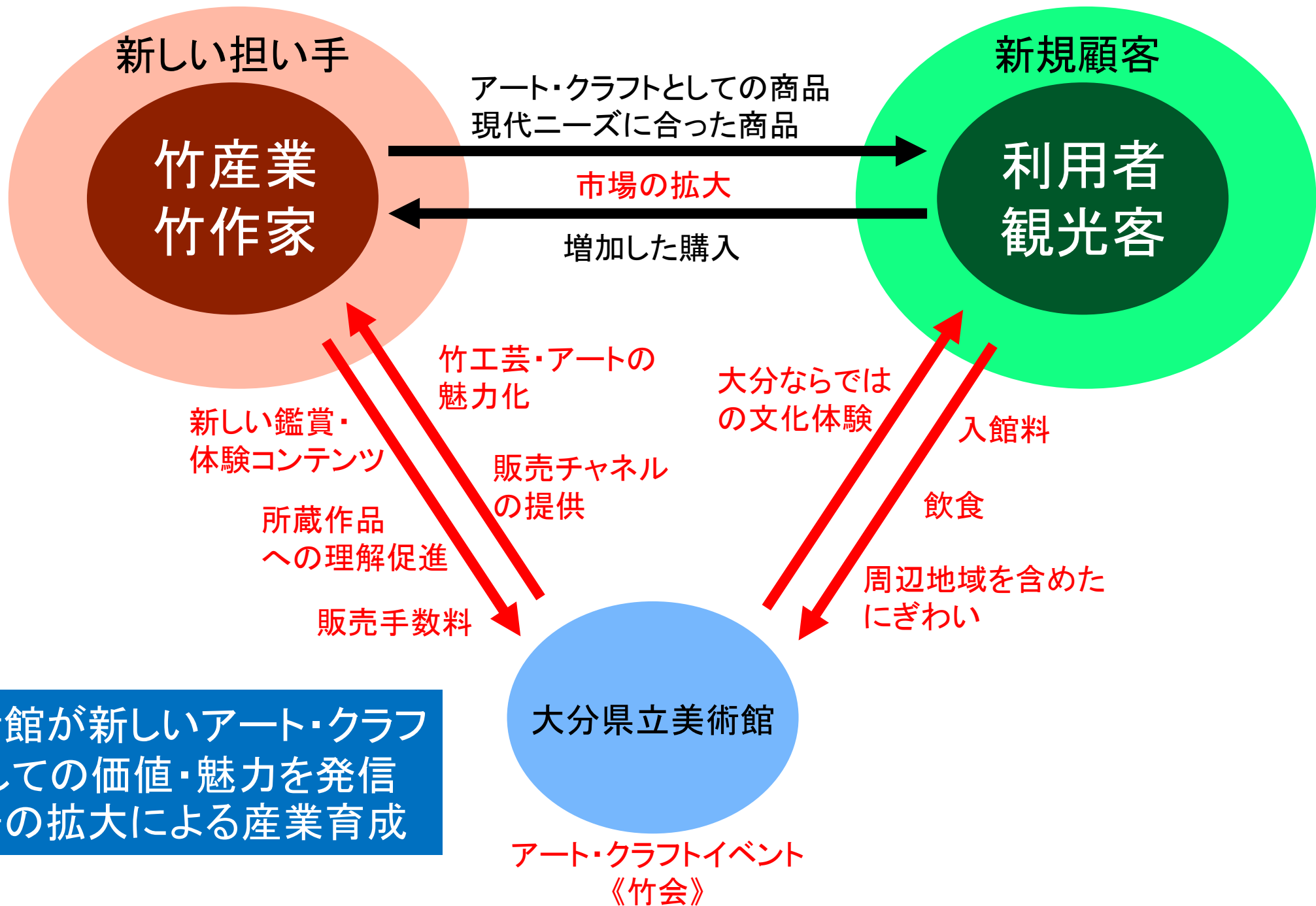
竹を見る 知る 考える 作る 遊ぶ 聴く 語る 味わう 触れる そして好きになる… 竹の魅力に会える16日間

(9/14~開催中の「特集展示 大分竹工芸名品展－此君礼賛Vol.8－」とは別の展覧会です)









美術館が新しいアート・クラフトとしての価値・魅力を発信  
市場の拡大による産業育成

## 竹会（開催期間を含む20日）のデータ

会場であるアトリウムへの  
入場者数：

2023年 22,434人 → 2024年 **32,358人**

インバウンドの入場者数：

2023年 553人 → 2024年 **736人**

工芸作品売上：

2023年 約20万円 → 2024年 **約50万円**

竹工芸特集展示(此君礼賛 おおいた竹ものがたり) 入場者数：

2023年 2,009人 → 2024年 **3,023人**

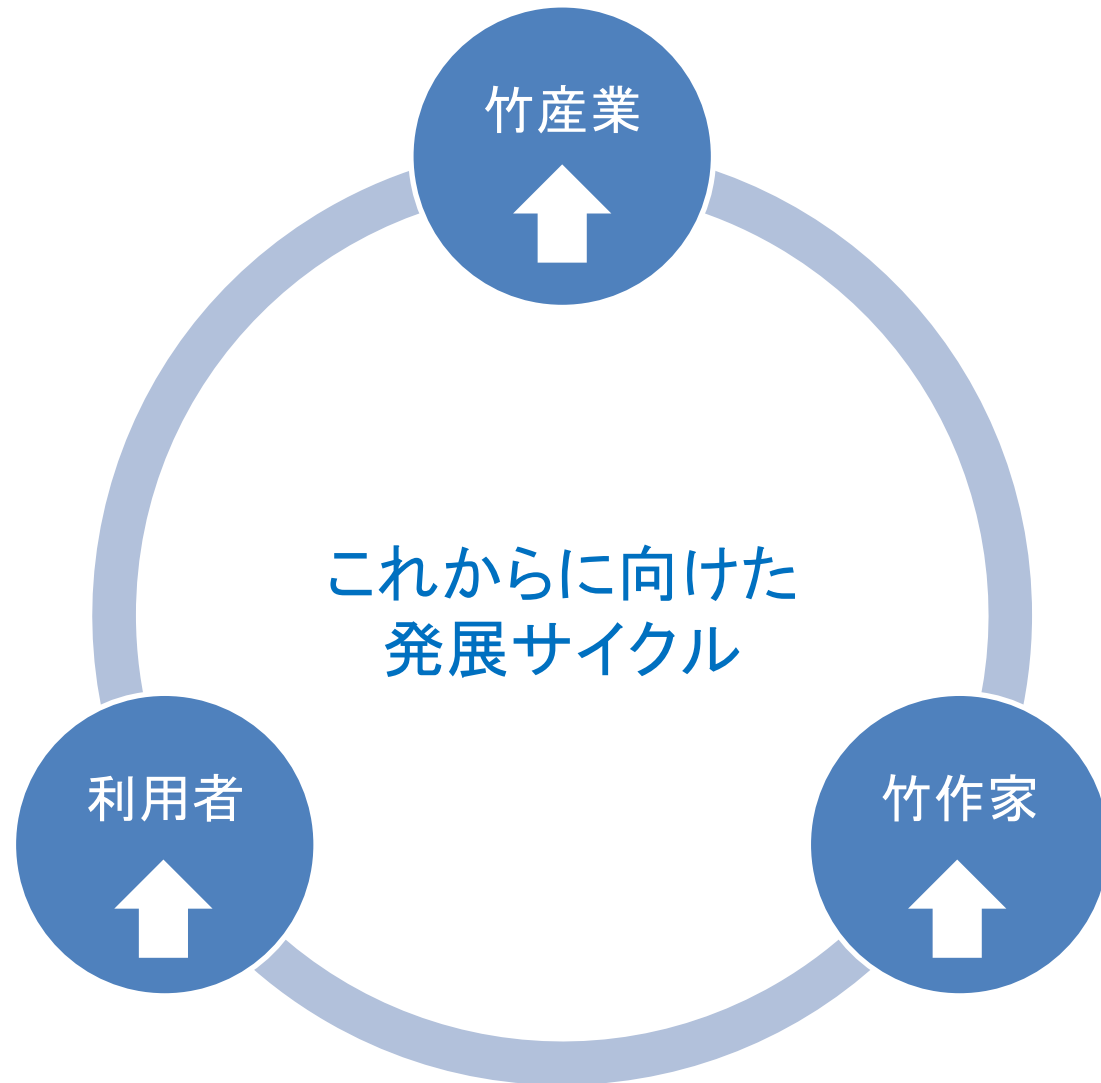
アートやクラフトとしての作品展示・発信  
現代的な魅力の付加  
新しい市場の創出

大分県立  
美術館

《竹会》

所蔵の工芸作品への理解  
価値・魅力の共有  
地域文化の継承と発展  
地域の活性化

使命と目的



地域の活性化と文化の継承

伝統的価値

近現代化以前の経済（生業）

現代社会・市場との乖離  
担い手の経時的減少

一部関係者による維持  
保存のための公的補助

多様な主体による活用と保存  
文化を起点とした交流と好循環

新しい価値

新しい経済（文化芸術・観光）

地域社会・市場との再接続  
新しい担い手・支え手の創出

**地域文化は他にないユニークな資源  
その活用が地域の未来を創る**